

町指定以外の袋を使用した
ゴミ集積箱へのゴミの投棄に
ついては、昨年度 4 件確認さ
れ、いずれも観光シーズン中
となっている。場所は、キャ
ンプ場付近や国道沿い、人目
に付きにくいゴミ集積箱への

《町長》
町指定以外の袋を使用した
ゴミ集積箱へのゴミの投棄に
ついては、昨年度 4 件確認さ
れ、いずれも観光シーズン中
となっている。場所は、キャ
ンプ場付近や国道沿い、人目
に付きにくいゴミ集積箱への

《今議員》
5 月の大型連休中、柳田地
区のゴミ収集箱にコンビニ袋
に入ったゴミが投入されてい
た。近所の住民が、町指定ゴ
ミ袋に分別し直し対応したと
聞いている。
このような町外の人による
ゴミ不法投棄の事例は、まだ
まだであると推察できる。
今は、夜間ゴミ収集箱に近
づくセンサーが感知し、点
灯するような電灯もあること
から、善良な町民が迷惑を被
らないよう、何らかの対策を
講じることができないか。

街灯のない箇所にある
町のゴミ収集箱対策に
ついて



▲不法投棄があったゴミ集積箱(柳田地区)

投棄が多く、観光の帰りに捨
てられたものと推測される。
対策として、不法投棄を監
視している旨の表示や、町民
以外の使用を禁止する旨を表
示し、地区住民とゴミ収集委
託者に対し、不法投棄を見つ
けた場合はすぐに連絡するよ
う依頼している。今年度は、
以前不法投棄が確認されたゴ
ミ集積箱設置箇所を重点的に
巡視したいと考えている。
街灯の設置に関しては、こ
の問題とは別に、自治会等か
らの地区要望の中で検討した
い。

現在、「しらかみのさ
と」入口から小島崎 18
4 番地付近までの農道小
島崎線が供用されている
ことから、この農道を川
沿いに横塚地区のカーブ
まで延伸できないものか。
農道延伸について、町
単独で行えないのであれ
ば、県道の迂回路として
県と協議するか、地元住
民や地権者と話し合い、
必要な用地を提供してい



▲左側が小島崎184番地付近に続く農道小島崎線
右側が県道種里町柳田線(岩坂地区)

補助事業の採択要件に該当し
ないのが現状であり、生活道
路の新設を実施するにも町単
独事業で整備しなければなら
ないことから、費用対効果を
考慮すると早急に整備できな
い状況にある。
現時点で考えているのは、
農道小島崎線の途中から分岐
し、ちようど横塚地区の上ま
で伸びている林道石動線の終
点付近と県道種里町柳田線
をうまく接続することにより、
事業費縮小を可能としつつ、
迂回路として整備する考えで、



▲横塚地区のカーブ付近まで延伸が望まれる
農道小島崎線(岩坂地区)

ただくなど、様々な方策
を模索し早急な対応を望
む。
《町長》
平成 26 年 4 月に岩坂自
治会から大童子川沿いの
河川管理用地を活用した
生活道路の新設を望む要
望書の提出があり、町と
しても農村整備事業制度
に照らし合わせ、農道小
島崎線の延伸を農道とし
て整備可能か検討してき
たところである。しかし、

農道小島崎線の
延伸について

《岩谷議員》

岩坂地区の生活基盤は、県
道石動種里線 1 本にすべてを
委ねられ、迂回路の設置要望
も何度となく提出されている
が、今だアクションが起こさ
れていないように見受けられ
る。財政的な要因が大きいこ
とは想像できるが、同地区入
口付近で火災が発生した場合、
消火活動が難航すること
は容易に予測できる。

一般質問

● 関診療所の今後の運営と通院患者の 交通アクセスについて

答弁：総合的に勘案し、今年度上半期中には、存続可能か
否かの決断をしなければならないと考えている。



岩谷 司議員

《岩谷議員》

昨今、関診療所エリアの住
民から「関診療所が閉鎖され
るのではないか」と不安視す
る声が聞こえてくる。
現在関診療所は、週 3 日(月・
水・金)の午前中に診療が行
われ、そのうち 2 日は町外の
医師が診療を担当している。
地域住民は、町外の医師がい
なくなった後のことを一番心
配しているように思う。

今後、数年以内に関診療所
閉鎖を考えているのか。従来
通り、町外からの医師を確保
しつつ、継続して診療を続け
ていくのか。
《町長》

関診療所継続の問題点につ
いては、2 人の代診医から、
居住地からの距離も遠く、高
齢・多忙を理由に度々辞退の
申し出があり、その都度懇願
し、今日まで診療を続けてき
たが、来年度はかなり難しい
状況になっている。また、代
診医だけで診察を行っている
現在の診療体制を問題視する
関係機関もある。

代診医だけの診療では、医
療のクオリティ(質)が確保
できないこと、1 つの自治体
で 2 か所の診療所を運営する
ことは、一般的に財政面・人
員確保の面でも大変であるこ
と、医師を集約化し、病院機
能を強化している診療所とな
れば医師が疲弊してしまう
ことなどから、県病の「地域
医療支援部」としては医師派
遣が難しいとの意向である。



▲関診療所待合室の様子

これらを総合的に勘案し、
今年度上半期中には、存続可
能か否かの決断をしなければ
ならないと考えている。

なお、民間等で関診療所を
運営していただける方があれ
ば、今まで以上に好条件を提
示し、公設民営化に向け働き
掛けていくとともに、引き続
き情報発信していきたい。

《岩谷議員》

深浦診療所が開
設し、田野沢地区
から大間越地区ま
で深浦診療所への
通院バスが運行さ
れ、多くの住民が
利用しているが、
関診療所への通院
バスは運行されて
いない。

若い人と同居し
ている人は、それ
なりの交通手段が
確保され不便なく
移動できるが、高
齢者だけの世帯は
それすらままなら

ない。

関診療所エリアでも高齢化
が進み、加えて自動車運転免
許証を返納する人が増えてい
る現状を踏まえ、関診療所へ
の通院バス運行を決断すべき
と思うが、町長の考えは。

《町長》

昨年度、深浦診療所を開設
したことに伴い、町全体とし
て診療所への送迎バス運行を
大きく見直した。

バスの運行委託先である(株)
ふかうら開発と合意のもと、
関診療所については、柳田・
岩坂方面の患者さんには、週
1 回のゆとり送迎バスを利用
して通院していただき、帰
りは診療所職員が対応すること
で、現在も利用可能となつて
いる。

関診療所は、1 日におおよ
ね 20 人の方々が通院している
が、その内、徒歩で通院して
いる患者さんは数人程度であ
り、関・北金ヶ沢地区で徒歩
が困難な患者さんについては、
従来どおり職員で対応可能で
あると考えている。



▲県道種里町柳田線の迂回路として整備を
考えている林道石動線入口(岩坂地区)

近く現地踏査^{ちやうさ}を行いたい。
これに加え、県道種里町柳
田線のカーブ改良と狭い箇所
の拡幅を解消することにより、
地区内の道路環境が改善され
るものと考えている。
今後とも、地区住民が安全
で安心して暮らせるよう迂回
路の整備についても、前向き
に検討していく。



▲横塚地区の上まで伸びている林道石動線(岩坂地区)

北金ヶ沢榊原地区 海側の側溝改良に ついて

《岩谷議員》

北金ヶ沢榊原地区旧大戸瀬
漁協製氷庫の海側に小公園が
あり、公園と防波堤の境に、
厚さ8センチメートル・幅50
センチメートル・長さ1メー
トルのコンクリート製の蓋が

かけられた側溝がある。この
側溝の蓋は、大人2人でも持
ち上げることができない重さ
である。この地区の住民は、
数年前、豪雨によって側溝か
ら水があふれ、床上・床下浸
水被害を受けた経緯がある。
そこで、コンクリート製の
蓋を、容易に持ち上げること
ができ、側溝の掃除がしやす
くなるようグレーチング製に
変えられないものか。

《町長》

指摘の場所については、平
成26年の大雨による洪水で浸
水した場所であり、その後、
青森県が榊原川流末の海岸護
岸の拡張工事を行ったところ
である。

その後も、ゲリラ豪雨によ
り浸水被害を受ける寸前まで
水位が上昇する状況が発生し
たことを深刻に受け止め、護
岸を貫通しているヒューム管
の拡張工事を県に要望してお
り、今般、鰯ヶ沢道路河川事
務所に確認したところ、既に
平成30年度において工事の設
計は完了し、実施時期は未定

であるが、今年度中に着工す
る予定との回答を得た。また、
側溝の蓋についても県工事と
併せ流末付近の一部側溝の蓋
をグレーチング製へ取替をし、
周辺地区住民が安心して暮
らせる環境づくりに取り組
んでいく。

グレーチングとは

一般的には、道路の排
水路にかける鋼材^{こうざい}を格子^{こうし}
状に組んだ側溝蓋で、素
材は鉄(亜鉛メッキ)、ス
テンレス、アルミニウム、
FRP製などがあります。

